

阿武町行財政改革等特別委員会 会議録

令和3年4月23日（金曜日）

場所：委員会室

開 会 9時00分 ～ 閉 会 11時33分

委員会に付した事件

令和3年4月23日開会令和3年第2回阿武町議会臨時会より付託された案件の審議

出席委員

委員長	7番	市	原	旭
副委員長	6番	伊	藤	敬久
委員	1番	池	田	倫拓
〃	2番	松	田	穰
〃	3番	清	水	教昭
〃	4番	田	中	敏雄
〃	5番	中	野	祥太郎
議長		末	若	憲二

欠席委員 なし

出席説明者

町長	花	田	憲	彦
副町長 (総務課長事務取扱)	中	野	貴	夫
教育長	能	野	祐	司
まちづくり推進課長	藤	村	憲	司
健康福祉課長	羽	鳥	純	香
戸籍税務課長	工	藤	茂	篤
農林水産課長	野	原		淳
土木建築課長	高	橋	仁	志
教育委員会事務局長	藤	田	康	志
会計管理者	近	藤		進
福賀支所長	佐	村	秀	典
宇田郷支所長	水	津	繁	斉

欠席者 なし

事務局職員

議会事務局長	俣	野	有	紀
書 記	矢	次	信	夫

審議の経過（要点記録）

開会 9時50分

○委員長（市原 旭） それでは委員会に先立ちまして一言述べさせていただきますと思います。

今回の臨時議会は、町長の2期目のスタート、実際は5月と言われましたけども、或いは、新たな同僚議員との新しい船出の議会とも言えると思います。どうぞよろしく願いいたします。

私、この議員の補欠選挙の結果をみて、真摯に町民の思い、或いは議会を含め行政に対する不満の多さとして単純に数字を受け取った部分もあります。町長は、「町民に寄り添い打てば響く」を実践して来られておりますけども、我々議員も腰を低くし町民の声に耳を傾け、その声を町政に生かす努力を重ねていかなければならないと強く認識したところであります。コロナ禍は日々刻々と変化をし、人々の不安、不満を増すばかりであります。そんな中だからこそ、本音をぶつけて町民と行政、議会が一つとなって次世代を育む施策を本議会では進めていくべきだと考えておりますので、本日も慎重なる審議をよろしく願いをいたします。

それでは、着座にて進行を進めさせていただきます。本日の出席議員は7名であります。本日、委員会に付託されました議案は、議案第1号、議案第2号の2件であります。（町長及び議長挨拶は本人申し出により省略。）

それでは、ここで、会議録署名人の委員を指名させていただきます。1番、池田倫拓委員、2番、松田穰委員、よろしく願いいたします。

それでは、特別委員会の審議に入ります。議案第1号、専決処分を報告し承認を求めることについて（阿武町税条例等の一部を改正する条例）の審議に入りたいと思います。関連の法令の変更に伴う改正ということで概ね説明があったとこ

ろであります。それでは質疑をお受けいたします。質疑はございませんか。はい、中野委員。

○5番 中野祥太郎 改正点の中の、土地或いは中小企業の固定資産税の優遇税制の関係と土地の上昇に関するもので、土地の上昇というのはゼロと思うが、阿武町ではないのではないかと思うが、中小企業の設備投資、これ平成30年度からだが、今までにそういう3年間ゼロとする特例の対象はあったのか。もし金額的に分かるのであればどの位なのか。

○戸籍税務課長 中小企業の固定資産税ゼロの対象は今までございました。件数的には令和元年度に1件、令和2年度に3件ございました。ちょっと税の関係でするので、詳しい事は割愛させていただきますが、内容的には、令和元年度が建設用機械（最新鋭の機械）の導入による申請がございました。令和2年度の3件につきましては、2件は太陽光パネルでございます。これは福賀の伊当の奥に2ヶ所ほど設置されており、これも最先端の設備ということで申請を受けているところです。もう1件は町内の業者で、ナベルさんで最先端の生産機械について申請をいただいております。以上です。

○委員長 他にございますか。よろしいですか。

（「なし」という声あり。）

○委員長 質疑がないようですので、原案のとおり承認すべきということでご異議ございませんか。

（「異議なし」という声あり。）

○委員長 異議がないようですので、議案第1号は原案のとおり承認すべきことに決しました。

続きまして、予算関連の審議となりますけども、ここで追加の説明等ありましたらお願いいたします。はい、まちづくり推進課長。

○まちづくり推進課長 恐れ入りますが、議場等で資料をお渡ししておりました

けども、備品一覧の中に個別の物がなかったので別に数字を入れたものを差し替えさせていただいております。それでは、この度の備品購入の経緯等について説明させていただきます。議場でもお話ししたとおり道の駅のテナントですが、入居者の方から1月末をもって撤退したいと申し出があり、新たにテナント募集を行ったところですが、手を挙げられた方と諸々の条件面等で折り合いがつかず困っていたところ、指定管理者のあぶクリエイションから、ぜひ直営でやりたいということがあり、町としても進めることとしたところですが、管理運営まで含めた指定管理ということで、道の駅の中でも直売所であったり温泉であったりプールであったり、また福祉施設で阿武福祉会にお願いしている部分であったり、そういったものは、設備については、町の方で用意して、運営の方は指定管理者の方でしていただくということであり、そういう中で予算の計上をさせていただいたところですが、この度買わせていただく物は、店のレイアウト、これは846の時に行かれたことがあると思いますのでご存知だとは思いますが、上の方が海側です。柱が打ってある部分が外のテラス席、真ん中の机、イスが置いてあるところがフロアです。一方で、備品一覧というものをお示ししておりますので、対照しながら見ていただきたいと思います。4人掛けテーブル5セットが真ん中のテーブル、イスで約80万円、そして窓際のカウンター席テーブル5台が90万円、イスが10脚で25万円、その左手の2人掛けテーブル、イスが2セットで15万円、そして下側ソファ席ということで4人掛けのソファが2セットで70万円、その左手の方、扉で仕切って個室として利用できる6人掛けのテーブル、イスが2セット50万円、を予定しております。それから、室内装飾として、吊り下げの丸いペンダントライト一式で30万円、それから外の方にテラス席として丸テーブルと4人掛けイス8セットで140万円、この他、食器類一式200万円、調理器具一式200万円、冷蔵庫とか大きな物は当初から用意がしてありますが、鍋、釜等一式ということで、合計で900万円計上させていただきました。この他に、この度、

直営でやることについては、色々どういった方にスタッフになっていただくかなど大変あぶクリエイションの方で苦勞されたようですが、今年になって藤田観光出身の男性のスタッフが入られ、その方が人集めに奔走され、店長、板場さん及び地元人材が集まったところですよ。店長については、萩市民館の前に萩元気食堂というのがあって、その店長山本登枝さんの他、調理の方が4人、厨房スタッフが3人、フロア回りのホールスタッフが4人の12人、もちろん交代で出ますので常時12人ではありません。内訳としては、正社員が4人、パートが8人で、住所は阿武町内が4人、あと8人は萩市ですがその内2人は阿武町出身の方です。オープンについては、色々検討したところですが、ゴールデンウィーク初日の4月29日にオープンし、ほぼ5月から11ヶ月ということになりますが、令和3年度の年間売上げは6,100万円を見込んでおり、経常利益は最低300万円を見込んでおるとのことです。メニューについては、現在開発中の部分もありますが、まずは4月29日に向けたオープニングメニューとして、地魚の刺身5点盛り、地元野菜の天ぷらをメインとしたかしま御膳、海鮮丼、無角和牛の牛すじを使ったカレー、後軽食としてうどん、そばということで、地域の食材を活用し阿武町らしき手作り感あふれる心のこもった料理を提供していきたいということです。また、追加で地元食材を使った料理も鋭意開発されているところです。店の名前については、「はじまりのレストランかしま」ということで、道の駅で阿武町は発祥の地であると同時に、常に初心の心を持ってお客さんに愛され生産者にも喜ばれるレストランを目指しています。営業時間については、午前11時から午後9時までとしておりますが、現在はコロナ禍ということで、当面平日については午後4時まで、土日祝日は5月15日から午後9時まで営業いたします。私からは以上です。

○委員長 まず、これについての説明をされましたけども、とりあえず補正予算書にそって審議に入ろうと思うのですが、歳入歳出一括で質疑をお受けしたいと思っておりますので、委員の皆さんからありましたらお願いいたします。はい、

清水委員。

○3番 清水教昭 まず、今回阿武町の費用を使うわけだが、阿武町の住民が利用されやすいようにするためにどのような阿武町らしい工夫がされているかご説明いただきたい。

○委員長 はい、まちづくり推進課長。

○まちづくり推進課長 利用しやすいという前に、まず認知をしていただきたいと思っております。なかなか道の駅直売所を含めて地元の方の利用が少ないので、月並みなやり方ではありますが、広報等では掲載もしましたけども防災無線でもお知らせをしますし新聞折込等でPRを積極的に進めていきたいと思っております。それと、メニューですが、直売所と連携して行うということで新鮮な魚、野菜、果物等がありますので、新鮮な物は新鮮で直売所でも販売するわけですが、料理にする課程で食材を有効活用していくということが直営でやる意味があるんだろうと思っております。それと、今このレストランが観光の核となる施設でありますけど、一方で、外のテントの方には、さまざまなテナントさんがいらっしゃいます。全て競合を排除するわけではなく、個性を生かしお客さんのニーズに合わせた形になればいいなと思っておりますので、このレストランについては皆さんに食事と時間と町の雰囲気を楽しんでいただける施設を目指していきます。

○委員長 はい、清水委員。

○3番 清水教昭 今色々答弁があったが、その中で、PRをしていきたいと言われたが、私も特に今回は奈古の皆さんに色々意見を聞くと、「なかなか足が向かない、なんでかね。」という答えが返ってくるわけで、今言われた認知、これが大切だと思う。では、具体的にどのようなPRしていくのか。たしかにホームページ等に載せておられるが、それにプラスして何か考えているか、これが1点目。それと店内を改装するというところでレイアウトをいただいたが、ここで3点、そのレイアウトのテーブル、カウンター、ソファ等で工夫されているところ。以前

と同じワンパターンでセッティングしても何ら訴えるポイントがない。ここをどういうふうにコーディネートされたのか、これが2点目。3点目は、導線が大切だと思うが、このレイアウトを見たときに何ら導線が変わらないな、お客さんというのは店内に入った瞬間の第一印象が大切であると思っているが、導線を含めてこのレイアウトをどう考えられたのか。特に、この中には会計処理する場所も席も決めてないけど、そういったことも踏まえて3点お聞きする。

○委員長 まちづくり推進課長。

○まちづくり推進課長 冒頭のみ私ですが、指定管理者であるあぶクリエイションがいらっしゃいますので、全ていちいち指示するわけではありません。今からどんな目新しいPRをしていくかについては、今のご時世で一番の媒体はSNSだと思っており、実際に来ていただいたお客さんが、ここで素晴らしいメニューや景色に触れて、そのことをツイッター、フェイスブック、インスタで発信していただくのが一番相乗効果、波及効果を生むものだと思っております。それ故、そこで接遇されるスタッフ、食材はもちろん阿武町らしさ、心のこもったおもてなしが次なる誘客への宣伝になるものと考えております。

○3番 清水教昭 まずはPRね。次の2点目は。

○まちづくり推進課長 レイアウトについては、町がこうなさいという立場にはないと思っております。

○3番 清水教昭 まず1つは改装ね。改装した時にどういう内容でコーディネートされたかということで、このレイアウト図面だけではイメージが湧かない。テーブル、イス、ソファ等仕様が打合せで上がってきていると思うがその辺はどうなっているのか。

○委員長 まちづくり推進課長。

○3番 まちづくり推進課長 今日はそこまで絵でお示しできておりませんが、家具類については、町の方で予算はいたしますが、使用されるのはあぶクリエイ

ションでありますので、そちらの方で吟味をされて見積を取られているところでもありますので、今日のご説明のために当然色々レジの台など全てこれで運営するわけではありません。この度予算でこういった物を買わせていただきたいというところの資料であります。

○3番 清水教昭 3点目、ではこのレイアウトを見た時に、顧客の目線、住民目線が大切だと思う。中には車イスの方もいれば小さいお子さんをお連れの方もいらっしゃる。そういった方々が来られた時にこれで導線としてOKなのかどうか、その辺は審議されたか。

○委員長 まちづくり推進課長。

○まちづくり推進課長 先ほど藤田観光出身のスタッフがと説明しましたが、この方は萩グランドホテルにも勤めておられましたけど、こういった専門家の目で見えて計画されたものだと思っております。

○3番 清水教昭 それで先ほどPRで、SNSを使うと言われた。だけど、昨日、もちろん宇田郷も福賀も大切だけど奈古の方に聞くと、高齢者の方はSNSを使っていると思うか。使っていない。若い世代から60代くらいまでの方ならSNSを使うだろうが、それを見た家族の方が祖父や祖母に紹介をしてくれればよいが、直接高齢者の方たちがSNSを使っているかということそれは難しいと思うがリサーチしているのか。

○委員長 まちづくり推進課長。

○まちづくり推進課長 ですから先ほど申し上げましたように、地元の方については、これまでチラシ公告をうっておりませんでした。3セクとはいえ会社ですから休館等のお知らせ以外の営業的なお知らせはしませんでした。ただ、この度はオープンのこともありますので、そういったお知らせもさせていただいたところでは。

○3番 清水教昭 ぜひ工夫していただき、メディアというのは色々あり、紙ペ

ースもあれば大切なものとしてロコミベースというのがあり、こういうのはロコミで失敗するとダメになるので、そういうところも有効に活用していただけたらと思う。それと、最後に導線で、プロの人に見ていただいたとのことであったが、プロにも色々いらっしゃるが、何ら前と変わらないように見えるが、そのプロの人がこのレイアウトを決めた時に、どういうコンセンサス、又はこれが私のプロとしての判断ですよというそういうことは出されたか。

○委員長 まちづくり推進課長。

○まちづくり推進課長 そこまでの部分で私は立ち入っておりませんので承知をしておりますが、まず、従前と似かよっている部分はありますが、海側のカウンター席は、やはり大きな改善点ではなかろうかと考えています。

○3番 清水教昭 とりあえずこれぐらいにする。まだまだたくさんある。

○委員長 他にありませんか。はい、池田委員。

○1番 池田倫拓 今回ちょっと最初の認識と違った部分があって、初めはあぶクリエイション自体が運営していくと思っていたが、その後ちょっと話を聞いて町の方からの運営委託ということで、町の方で用意するということと認識しているがそれでよいか。

○委員長 まちづくり推進課長。

○まちづくり推進課長 それは誤解で、今、令和2年4月から5ヶ年であぶクリエイションに町が指定管理をしております。これまでレストランについては、テナントということで建物の管理だけだったものが、運営まであぶクリエイションをお願いをすることになるわけで、運営管理まで含めたところを指定管理するわけで、別途委託するというものではありません。

○1番 池田倫拓 それは改めて聞いて分かったが、この予算を立てる時に、町の方からこれ位の予算でという最初の上限設定とかはなかったのか。なんぼでもかかればかかるだけ出しますよという形だったのか。

○委員長 まちづくり推進課長。

○まちづくり推進課長 私の方でも事前にテナント募集して2者から提案があった時に、当然それもゼロからですから、そういった事業内容もうっすら見ておりましたし、初度の経費として1,000万円程度はかかるだろうとは考えておりましたが、その上で、あぶクリエイションの方で運営するに当たって必要な備品を見繕ってくださいということで、出てきたのが今回のものです。

○委員長 他の委員さんからありませんか。はい、田中委員。

○4番 田中敏雄 これは、あぶクリエイションが運営するという形になるが、ここが一番のポイントで、テナントで入った場合は、その人が必死になって利益を出す努力をされるが、あぶクリエイションが経営する時に、ここで働く人たちが例えば給料制なのか歩合制になるのか配当なのか、何かそこに働く人の意欲が発揮されたら、ここで今から自分たちが食堂をやったらレイアウトからみんな必死になって考えると思うが、これはどこかに委託するということになる、自分たちは作っておけばいいやというように安易にそういった形に流れていくような一番悪いパターンになる時に、やっぱりそこに働く人たちが、誰かテナントで入ったような気持ちで、どういうふうな形でそこに関わってもらえるのかというのが今からが大切ではないかと思うが、その辺は社長がおられるから、どういうふうな取り組みをしていこうと考えているか。

○副町長（中野貴夫） もちろん、あぶクリエイションでやるということでありませんが、ここはあくまで町の施設です。私たちは阿武町の顔としてこれから経営をしていきます。そして阿武町の新鮮な素材を皆さんにきちんと食べていただくためには、普通のレストランでは困りますよ、やはり阿武町に来て良かった、阿武町の人もこういう施設が出来て良かったと思うようなレストランを作っていきます、とは社員一同きちんと伝えて一丸となってそういった取り組みをしていくことにしております。

○4番 田中敏雄 それがね、こういう900万円という金額、町の税金をそこに費やして、そこに働く人たちが、自分のことは必死になってやるが、そこが従業員からすると、売上げが落ちた、これは道の駅はだめだと、ポッと逃げられるような、辞めていくようなかっこうでは非常に問題がある。そこには、それだけ投資した分だけ、皆さんが働く人たちが頑張ろうと、今社長が言われたようなことが、我々は町の代表であるから、あの施設は絶対に阿武町が脚光を浴びる場になってほしいと願うが、そうでなかった場合は、その辺のところで従事する人たちがやっぱり意欲的に今まで846がやられたように、自分の店であったら来た人に挨拶したりとやられるんだろうとは思いますが、何かそういう部分でも人を介して伝わっていくような形で取り組んでほしいと思う。

○委員長 他の委員はありますか。はい、中野委員。

○5番 中野祥太郎 この金額は消費税込みの金額か。

○まちづくり推進課長 そうです。

○5番 中野祥太郎 これで900万円というのは単価が高いように思う。例えばカウンター席のカウンターテーブルで1つが18万円、そして6人掛けテーブル、イスが1個4万円と、ちょっと全体的に単価が高い気がする。この備品を仮に7年で償却するとした場合、一般事業とすると年間130万円近く経費が必要になってくる。今まで家賃をもらっていたとすると、収入の減と支出の増で450万円程度の損失になると思う。それからして毎年450万円程度かかるわけだが、それで経常利益が300万円ということで、ちょっとここがもうちょっと出ないと合わないと思う。一般企業の感覚からいくと。すべからく500万円程度利益が循環しないと他の付加価値、阿武町にとってそれだけ別のものがないと単純計算でいくと合わないのではないかなと思う。サービス業ですから、食堂関係ではおもてなしが一番になってくると思うが、その辺の教育は今からどうするのか、従業員を育てる、これが一番重要ではないかと思うがどうか。

○委員長 副町長。

○副町長 従業員を育てるということ、非常に大切、人材は宝だと思っておりますので、教育もオープンに向けすぐすぐにはなかなか出来ませんが、随時社員教育をしております。今後、商工会等の力を借りて講師等を派遣していただき、社員教育はきっちりしていきたいと思っています。

○委員長 他に皆さんから、はい、松田委員。

○2番 松田 穰 先ほど、道の駅の直売所の魚を使ったりとかいう話があったが、実際、奈古や宇田郷の定置網をやっている漁師さんがおられて、朝水揚げされる魚がほぼ毎日と言っていいくらいあると思っている。そういったところから直接安く魚を仕入れたり、場合によっては採れすぎた野菜を安く仕入れるとか、そういった工夫をこれから先考えられているか。

○委員長 はい、副町長。

○副町長 今、既にもう野島水産、小野水産、米原水産、宇田郷定置網についても皆顔合わせをして、お互いにウィンウィンになるように話はしてあります。

○委員長 他の委員さんありますか。では、一つだけ私の方から。以前やってらした状態と席数について増減はないか。

○委員長 まちづくり推進課長。

○まちづくり推進課長 席数ですが、室内が54席で、屋外テラス席が32席、で以前の時は、室内が60席くらいだったと思います。屋外にもイスはあったんですが積極的な活用はありませんでした。今、ちょっとコロナの時期でもありますが、ちょっと空間を開けて外も活用しながらということで、特に外は積極的に晴れ晴れした所で食事を楽しんでもらいたいと聞いておりますので、そこも活用すれば全部で86席、大型バスが来ても対応できると考えております。

○委員長 もう1点、今コロナとも言われたが、よくレストランとかでパーティションされたりとかアクリル板を設置したりとかそういうことはされるのか。

○副町長 コロナ対策は万全にするつもりです。

○委員長 それに対する経費が必要になってくると思われるが、そういったことはこれにプラスされるのか。

○副町長 まだ、そこまで考えておりません。

○まちづくり推進課長 原則、10万円を超えるものについては設置者の方で、それ以下の軽微なものについては指定管理者の方でと考えております。

○5番 中野祥太郎 もう一つお聞きしたいが、テラスの所は、テラスの活用で、直売所で買った物を食べる所がないという話が前からあったと思うが、これは例えばここで食べることは可能か。レストラン利用者しか使用できないのか。

○委員長 まちづくり推進課長。

○まちづくり推進課長 今キャンプフィールドの方にジオカフェがあり、こちらはイトインということにしておりますので、直売所で買った物を積極的に持ち込んでいただきたいと思えますし、既に直売所の海に面した所にはテーブルを置いて食べられるようにしてあり、テント広場にも自由に利用できるようにしてありますので、レストランのテラスはレストラン利用者のみでと考えております。

○委員長 他に、はい、伊藤委員。

○6番 伊藤敬久 今、予算が900万円、外部委託とか一切いらないと、そして収入が年間6,100万円、利益300万円と言われたが、12人の社員を雇って、毎月300万円くらい人件費を払うことになると思うが、それで料理を出して利益率がどのくらいあってそれで賄えて利潤が出るのかどうか検討されたのか。何人くらい来てどれくらい利益率があって、これくらいだったらやっていけるというような細かい試算をして運営して自前でやるよと検討されたらどうか、というのがやはり心配になる。だいたい親方日の丸ではないが、公務員が色々検討する時には、足らなければ税金を足せばどうにかなるという考えでものが進むきらいがあるからうまくいかない。個人でやれば本気になってやるから利益を出さないと自分が潰

れるから一生懸命やると思うが、きちんとそういう細かな試算をし、検討されて運営ができるよというところまでやっているのか。今、あぶクリエイションの利益もコロナの前は約1,000万円の利益があったが、今コロナが来て今年も利益はあるものの200万円から300万円程度に落ちている。このコロナが何年続くか分からないが、甘く考えていると町の負担になりはしないかと心配する。その辺のところをきっちり考えて運営をされるのか、これを成功させるために社員、担当は本気になって世話をするかどうかを聞きたい。

○委員長 まちづくり推進課長。

○まちづくり推進課長 先ほどあぶクリエイションからいただいた数字で説明しましたが、前のオーナーは町内の方ですから、色々数字を開示していただき、コロナ禍ではありましたが、売上げは最後8,000万円から9,000万円あったと聞いております。また、費用の内訳ですが、飲食業では1/3が原価、材料代、1/3が人件費、通常であればそれ以外に家賃であったり減価償却が入って来るが、この度は家賃や減価償却は生じません。300万円というのは6,100万円の約5%ですが、通常に頑張ればもっと大きい数字が出てくると考えますし、先ほどご指摘いただいたスタッフの意識、親方日の丸ではなくて、自分たちで稼ぎ出すんだというところは社長の下で教育もされるでしょうし、またそれを喜びとして携わっていただきたいと思っております。

○委員長 他の委員、よろしいですか。はい。清水委員。

○3番 清水教昭 今年度の売上げ6,100万円と聞いたが、6,100万円とした時に純利益の金額をいくら見込んでいるのか、そして、この6,100万円にした根拠について、の2点についてまずお聞きする。

○副町長 細かい数字は持ち合わせておりませんが、純利益が300万円、売上6,100万円というのはこれまでの前オーナーの方からの話を聞いた中で、今既に1月経っているので難しいところはありますし、正直コロナの関係でどん底の状態

です。しかし、やはり目標を高く持っていないとそこを目指すということにならないので、ちょっと無理をしています。そういうことでやっというこことで試算する中でその数字を出したということです。

○3番 清水教昭 もうちょっと切り込んで、1つは、こういう店舗を使い営業する世界というのは、目標利益達成点売上高というのがあり、300万円を出すための売上げをどうやって出すかというのが目標利益達成点売上高という算出方法があるので参照願いたい。そうした時に、月あたりどのくらいを目論んでいるか。

○副町長 月あたり500万円から600万円程度と見込んでいます。

○3番 清水教昭 その500万円から600万円で本当に中野委員や伊藤委員が申された利益が出るのかというのをぜひシミュレーションしてみしてほしい。2点目、そういう場合固定費と変動費が発生する。どちらの管理は大切であるが、その中の売上原価を維持、達成するためにどういう工夫をしようとしているか。

○副町長 当然商売ですから利益を出さないといけませんので、売上原価の計算をしながらメニューを決めております。ただ、私としては、道の駅全体として考えていく必要があると思っていまして、温泉、直売所等と連携し、その相乗効果により売上げを伸ばしていきたいと考えています。そして、道の駅全体の底上げをしていきたいと思えます。

○3番 清水教昭 そういう予測効果というのは予測できるが、相乗効果は予測できない部分がある。例えば売上原価をどうするかといった時に、魚というのは豊漁の時もあれば不漁の時もある。そうすると冬場の魚の原価は高くなるが、店で料理して出す金額は変わらない。そうすると売上原価や利益が大きく変動する。だから私が聞きたいのは、そういう場合にどのように対策するかということ。だからその辺も踏まえて、非常時の原価設定は大変苦しいから、従業員全員のモチベーション、力を借りないと達成が難しいと思うから、今後こういう部分は工夫してほしい。次に、4月29日が試験営業開始と聞いたが、今日から7日間しか

いが、各備品等の発注先とかそういう手続単位はどういうふうになるのか。

○副町長 ご議決いただきましたら、すぐ契約できる体制を取りたいと思います。

○3番 清水教昭 ということは、仮発注はしないということだね。本来なら900万円というのはここで承認しましたよということであり、そして動くわけだが、7日間では当然間に合わないと思う。既製品であればすぐ発注、納品ということも可能だが、阿武町らしさを出そうとすると仕様変更等で時間がかかる。だから仮発注をしていないと間に合わないと思うが、仮発注はしていないのか。

○まちづくり推進課長 今、手元に見積を持っておりますけど、オーダー品ではなく既製品であります。

○3番 清水教昭 見積を取るのは当然。仮発注をしているのかどうかを聞いている。私たちの承認、委員会の承認を得ずしてもう発注をしてしまっているのかということ。いくら既製品であってもここで承認しなければ29日には間に合わない。やはり、私たちの承認がないと手配ができない。答弁がないということは、私は仮発注しているのではないかと思う。委員の私たちを全員蚊帳の外において見切り発車したということになる。そんな事が許されるのか。これは、今後検討してほしい。もう一つ言うと、備品代の総計金額が高いと各委員からも出ているが、ちょっと高いから節約し減額してほしいといったときに、削減は可能か。

○委員長 まちづくり推進課長。

○まちづくり推進課長 もちろん契約はまだしておりませんし、これまで阿武町が金満なことをしてきたことはないと思っております。これは予算でありまして、金額を1円でも削減することに努めたいと思っております。

○3番 清水教昭 了解した。ただ、こういう資料を作るのは簡単だが、きちんとこれに必要な内容を付記することが大事。時間がなかったかもしれないが、私たちが判断できる材料を出してほしかった。

○委員長 では、他の委員の方もまだご意見がありそうなので、いったんここで

休憩したいと思います。10分まで休憩します。

休 憩 10時58分

再 開 11時09分

○委員長 ちょっと早いですが皆さんお揃いですので、委員会の方を再開させていただきたいと思います。それでは、清水委員。

○3番 清水教昭 1点だけ、やはりこの900万円という金額は非常に大きい。今後、第3セクターでも色々必要な経費が出てくると思うが、そうした時に、要望があれば青天井でお金を出していくのか。その辺の考え方を伺いたい。

○委員長 町長。

○町長 これは、あぶクリエイションを作る段階で色々議論した中で、まず、営業を第3セクターが良いのか、完全に民間セクターが良いのか、或いは公共のセクターが良いのかという議論を随分したと思います。その中で色々な先行事例等も検討した中で、今の形が出来上がったということです。その時に、第3セクターが夕張の事とかがありましたから、第3セクターは悪だという風潮はありましたが、現実問題として第3セクターが悪いということではなしに、第3セクターの良さもあるし、それでやっている所もたくさんある中で、今の形が出来たという経緯があります。ただ、やはり清水委員が一番懸念されている点については、あぶクリエイションが出来た時に侃々諤々あったわけでありましたが、初期投資以外は一切しないということで、運営費補助は全くしておりません。ただ、補助に替わるものとして、テナント収入は町で収入せずあぶクリエイションに入れることとしていました。ですから、今回直営するとなると300万円近い収入があぶクリエイションとしてはなくなるわけで、その上でこれをやっていくという覚悟をされたわけです。その中で、町としては、これまであそこは中の運営はテナントがやっておりましたが、今後中身の運営も直営としてやるということになり、そ

うすると、これを指定管理するわけですが、要は、今ある色々な運営まで委託している指定管理と全く同じで、いらお苑、恵寿苑、道の駅では直売所、温泉等ありますが、そこにある机やカウンター、ベッド等備品については、初期投資として町がセットし、これでやってくださいよとしております。ですから、今回これが予算に上がったということは全くそのことで、他と同じく初期投資は町がします、これでやってください、ただ、論点となっている今後どうなるのかということについては、私は運営補助する気は全くありません。例えば、赤字が出たからといって、あぶクリエイションに補助したことはないし、今からもありません。ただ1点、これはいつぞや申したことがあるかと思いますが、冬場の食べる所、冬場の寒い時期に外に出て食べるかという話があって、お客さんに聞いてみると、車の中で食べているということもあって、やはり今の直売所にそういう所がないという大きな欠点があり、それはお客さんにとっては魅力の1つが欠落することになりますので、道の駅をもっと魅力あるものにしようと思えば、そういったものを将来的にはなえることは必要かもしれません。ただ、今はビジターセンターのカフェやテラスとか出来るので、それが機能すれば新たな投資をする必要はないと思っております。ただ、それが全く機能しないということになれば、今すぐには言いませんが、そこは改善する必要があるんじゃないかと、そうするとそういうスペースを作る道の駅の改造ということは、将来的に有り得ると思います。ただ、それは運営補助とは違うものであり、今回の様な直接的な運営に関する補助は、今までもなかったし将来的にも全く考えていないと申し上げておきます。

○3番 清水教昭 私からはありません。

○委員長 他の委員から、はい、田中委員。

○5番 田中敏雄 保健衛生費の方で、コロナワクチン接種は5月11日から福賀地区、19日から奈古地区ということだが、まずどういう体制で臨まれるか、そして、福賀診療所での接種を要望されている人のワクチンが十分あるのか、対応で

きるのかその辺のところを説明願いたい。

○委員長 健康福祉課長。

○健康福祉課長 接種にかかる体制については、今回は組み替え予算を計上させていただきましたが、接種を安全に行うためには、まず、医療スタッフが足りていないという阿武町の現状があります。そのために看護師、保健師といった有資格者の方を町内の事業所から派遣していただくということで、今回具体的に申し上げますと、阿武福祉会、阿武町社会福祉協議会で働いておられる看護師、保健師等を派遣していただく。後、個人で資格を持っておられる方を雇うということで、スタッフの確保と、事務スタッフについては会計年度任用職員で対応する予定であります。福賀診療所におきましては、まず、5月11日が初回ということで、福賀診療所において接種を行います。この福賀診療所と奈古、宇田郷で行う集団接種については、事前の65歳以上の方の意向調査をさせていただいておりますので、その調査結果を基に振り分けをしております。今月中に日時を指定した接種案内ハガキというものを郵送させていただくことにしております。

○4番 田中敏雄 その案内が来て、福賀診療所はどういう体制になるのか。それからどういう流れで接種を行うのか。みんなが聞いてくるから我々も知っておかないと話ができない。

○健康福祉課長 福賀診療所におきましては、まず、基本的に午後1時から午後3時までの2時間で接種を行うということで、曜日については、月曜日を除く火、水、金であったり、木曜日が入ったりしますが、週に2日から3日のペースで行うことになっています。福賀診療所におけるシミュレーションはまだ行っておりませんが、標準的に言えば30分の時間の中に15人の方の張り付けをするんですが、2時間の接種時間の間にマックスで40人と考えております。なるべく密にならないように時間をそれぞれ指定しておりますので、調整が必要な方は調整を行います。密にならないようにしていただいて、受付の時に、まず接種案内ハ

ガキを出していただき、健康保険証で本人確認し、基礎疾患や病院に罹られている方につきましては、副反応の危険がありますので、お薬手帳もご持参いただき、そこで、第一段階で持ってきたものを確認し、次に、受付にて予診票をあらかじめお送りしておりますので、接種を受けるための予診票、既往症であるとかそういうことを確認して、また、記載が全てされているかを確認し、その次に、今度は保健師、看護師等の所に行っていただき、更に予診票の中の詳しいチェック（聞き取り）をさせていただきます、ここで健康状態等も確認の上、接種可能という前提で、いよいよ先生のところで接種を受けることとなります。注射を打つのは先生ですけど、ワクチンの充填であったり、腕をまくったりとかいうのは看護師が行うこととなります。そして、接種が終わって、次に接種済証というのをお渡しして、次の2回目の接種の案内をし、その後経過観察で15分から30分の間その場に留まっていたいただき、その方に副反応が出てないかを確認し、副反応もなく体調に変化がない方についてはお帰りいただくこととなります。

○4番 田中敏雄 もし予定していた日にちで都合が悪くなった場合、薬が余ったらどうなるのか。

○健康福祉課長 そうなった場合、医療スタッフの中でまだ接種していない方に打つことは認められています。それと、後、その次の予約の方で来てもらえそうな方をピックアップしておき、無駄にしないようにする予定であります。

○委員長 町長。

○町長 今のやり方で、国のやり方とは違うんです。敢えて違えているんですけど、国のやり方は、接種券がきて、いついつに自分でコールセンターに電話しないといけないんですが、ところがコールセンターに電話しても繋がらない、そして自分が思った日にできない、お年寄りがきちんとコールセンターに電話できるかどうかとも困難であるということで、私たち組長で集まりがあるんですが組長も大変悩んでおられる。阿武町は、たまたまですが税金の申告のやり方が、いつい

つ来て下さいという日にちを決めてやっております。あの方式を使ったらどうかということで、同じように町が一応指定して、いついつこの集落はお願いしますとか、診療所であれば地域を固めるんでしょうけど、いついつ来て下さいと、こちら側から日にちを指定する。もちろん調整は出来ます。そうすれば、日にちが決められている。そして、集落がある程度固まるので、ご近所の方々に声かけが出来て、忘れていたことが少なくなるし、移動手段のない人については送迎が必要ですが、それが、同じ集落であれば1ヶ所に行って、そこで何人かが乗って来られる。私は、コールセンター方式よりも阿武町方式でやる方が、メリットがあると思います。今、阿武町においてお年寄りの対象者が1,545人で、この前アンケートを取りましたが、その内1,451人、93.9%の方から回答がありました。その内の「やる」と答えられた方が1,359人、93.7%でありました。私としては、副反応の心配もあり8割台かと思っていましたが、93.7%の人が希望されていますから安心したところです。そういうふうなことで、この前も集団接種のシミュレーションを町民センターでやってみました。その時の話を聞いたら、よそでやっているシミュレーションで出た課題をちゃんと入れ込んだ中でやったにも関わらず、それでもまだまだ改善点が出るというのをプロジェクトの方から聞きましたので、それはもちろん改善、対策をしながらやっていくことになりますから、私は割にスムーズに行くんではないかと思っておりますし、そのようにしないといけないと思っております。

○委員長 他に、皆さんありますか。はい。松田委員。

○2番 松田 穰 レストランの話に戻るが、メニューについてかしま御膳とか無角和牛のカレーとかを聞いたが、価格で他にもっと手頃なメニューというか地元の人がお昼食べに行ったりできるくらいの価格のものがあればと思うが、その辺はどうお考えか。

○委員長 副町長。

○副町長 メニューについては、とりあえずゴールデンウィーク用のメニューを4品ほど作っているわけです。ちょっと割高かなというところもありますけど、道の駅全体を考えた時に、例えば、海鮮丼でありましたら宮川さんが魚っちゃん食堂というのを出しておられますし、たこ元さんもうどんも出しておられます。で、846さんも定食を作っておられます。やっぱり道の駅全体を考えた時に、おらがおらが自分のところだけが儲かれば良いという考えではなくて、やはり急いで安く食べたい方はどうぞ外で、時間があってちょっと高くてもゆっくり景色を見ながら味わいたいという人はどうぞレストランに来て下さいという棲み分けも考えております。で、今後ちょっと落ち着きましたらメニューも色々今から作って行く予定でありますし、また皆さんの意見を聞きながら、先ほどの話にもありました原価計算もしながら金額は決めていくようになると思います。

○委員長 松田委員よろしいですか。他にありますか。

質疑がないようですので、原案のとおり承認されたということによろしゅうございますか。

(「はい」という声あり。)

○委員長 質疑がないようですので、議案第2号につきましては、原案のとおり可決すべきものと決しました。

本委員会に付託されました2件につきましては、1号につきましては承認すべきもの、2号につきましては可決すべきものと決しました。全体を通してご意見があれば、よろしいですか。

(「なし」という声あり。)

○委員長 ないようであれば、審議を終了しまして行財政改革等特別委員会を閉会させていただきます。

閉会 11時33分

阿武町議会委員会条例第26条の規定により署名します。

阿武町行財政改革等特別委員会委員長 市 原 旭

阿武町行財政改革等特別委員会委員 池 田 倫 拓

阿武町行財政改革等特別委員会委員 松 田 穰